

今日のみことば

□ 7月22日(日) 歴代誌下 8章

ここにはソロモンがなした様々な事業が記されている。彼は主の家と自分の家を建て終わってから、諸々の町を建てた。またソロモンは宮の礼拝を整備した。

□ 7月23日(月) 歴代誌下 9章

ここにはシェバの女王の来訪のことが記されている。それはソロモンの富と知恵にひかれてのことでした。ソロモンの功績は異教の女性との結婚によって失われた。

□ 7月24日(火) 歴代誌下 10章

ソロモンの治世は、イスラエル王国の黄金時代であった。そのような時代でも不満と動揺は見られた。ヤロベアムの反乱によって王国は分裂した。

□ 7月25日(水) 歴代誌下 11章

ここには内乱の回避が記されている。神はダビデの家系を守り、メシヤをダビデの子孫から生まれさせる計画を無傷で残された。

□ 7月26日(木) 歴代誌下 12章

レハベアム王は主のおきてを捨ててしまった。民もまたその影響を受けて、そのわざにならった。その結果、エジプトの王シシャクはユダ攻略に成功した。

□ 7月27日(金) 歴代誌下 13章

ソロモンの孫アビヤの名演説が記されているが、アビヤはほとんどの場合、邪悪な王であった。彼はダビデに与えられた契約の下で、わずかな善行の注目されている。

□ 7月28日(土) 歴代誌下 14章

「主が良いと見られること、御目にかなうことを行った王」がまたユダに現れた。アサは徹底的な改革に着手し、神への従順が平和をもたらした。

ろ ぼ No. 1877
2018年 7月22日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 5:11

わたしたちは、今や和解を得させて下ったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。

「わたしたちは、今や和解を得させてくださったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである」との言葉を、私はしっかりと心に留めさせていただきます。これが福音なのです。このロマの信徒への手紙を通して、彼が語る「福音」をしっかりと聞き取らせていただくのです。

ご存じのようにこの手紙は、キリスト教の教理についてパウロが理論的に体系的に書き記したもので、私たちが、私たちの信仰の中身をしっかりと確認させていただくのに、大変重宝させていただいていると言っても過言ではありません。そこで私たちは何を確認させていただいていますか。徹底してこの私は罪人であると知らされることです。「正しい者はいない

一人もいない。悟る者もなく、神を探し求める者もない」(2:10-11)とパウロが言います。

よく聞かせていただく言葉ですが、キリスト教をこころよく受け入れることができないのは、人を罪人扱いするところだ、と言われることです。確かに人間誰しも、後ろ指さされないまでも、聖人君子だと思っている人はいないでしょう。しかしキリスト教はそれを越えていると言われることです。それでも私たちは「正しい者はいない。一人もいない」と公言させていただきます。

その私を神は愛して、その地獄行きの私たちを救い出して下

さろうとしていて下さる、との神の愛をしっかりと受け止める者でありたいと願っています。そのことをパウロは徹底して私たちに、「わたしたちは信仰に基づいて義とされ、わたしたちの主イエス・キリストを通して、神に対して平和を得ている。このイエス・キリストを通して、わたしたちは、その信仰によって恵みの中に入ることができました」(5:1-2)と告げられるのです。パウロははっきりと「憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、—あなたが救われたのは恵みによるのです。」(エペ2:4-5)と宣言する通りにわたしたちの救いはイエス・キリストのあるということを私たちはしっかりと心に留めさせていただくのです。主イエス・キリストの十字架の出来事、「福音」をしっかりと聞きとらせていただく時、本当に私たちは神さまの慈しみを喜びたたえさせていただくのです。主なる神はいつも私たちと共においでです

「我々は日常の生活に神を取り入れ、活かしていかなければならない」とある人がいった。すると他のひとが声をはりあげていった。「神はすでに、そこにおられます。私たちがまずしなければならないことは、それに気づくことです」と。「私たちが主の臨在を認めなくても、あるいは気づかなくても主は常に近くおられる。私たちはそれを祈りの時に確かめさせていただくのです。『主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに、主は近くおられる』(詩145:18)ということばを何回も口にするには、神がそばにおられることを認めて、それにふさわしい生活をするようになる、とF・B・マイヤーは私たちに教えてくれました。

聖書の学び・祈祷会

創世記21:1-8

サラの笑い

神さまは約束されたことは、必ず果たされるお方です。神がアブラハムに子が与えられると言われたときサラは、この年老いた者にと笑ったのでした。「国民の父」とすると言われた神の約束は、なかなか果たされません。諦めかけたこともありました。「主は、約束されたとおりにサラを顧み、さきに語られたとおりにサラに行われたので、彼女は身ごもり、年老いたアブラハムとの間に男の子を産んだ。」

アブラハムはその子をイサク(笑い)と名づけました。アブラハムに子、など想像すら出来なかったことでしたが、神さまにはそれがお出来になる。そのとき神さまのなさることと、神さまがことを告げられたときのことを思いだし、アブラハムの内に笑みがこぼれたのでしょうか、息子に「イサク」という名をつけたというのです。私はそのアブラハムの心を思い計らせていただき、心からの神をほめたたえた言葉だと思っています



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ロマ5:12-21 恵みに満ちあふれ